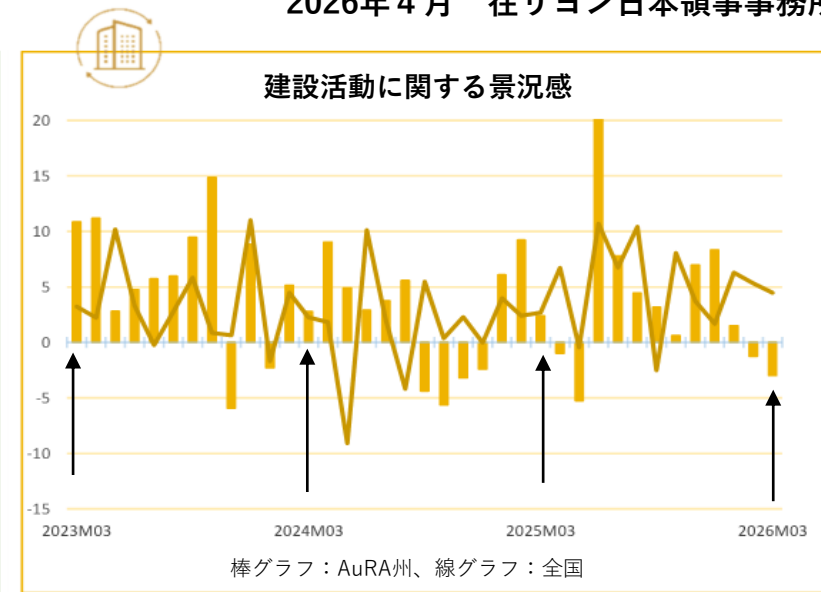
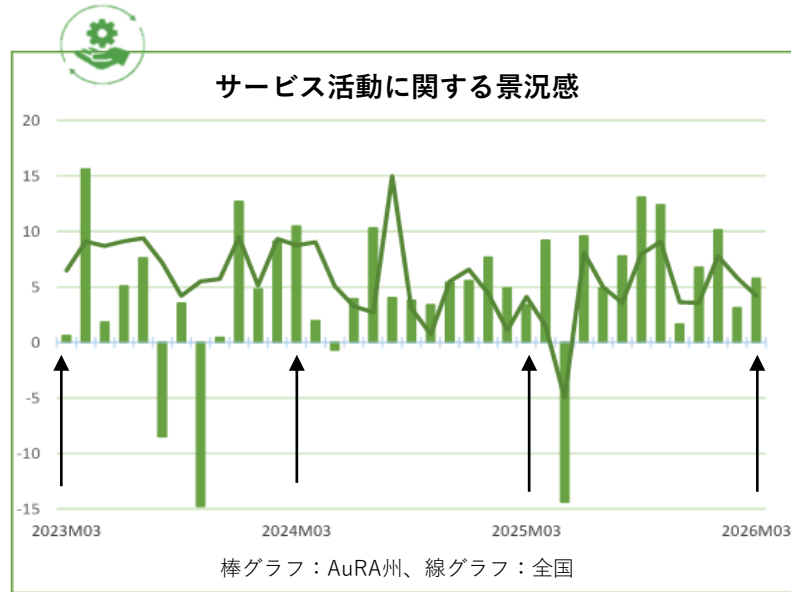
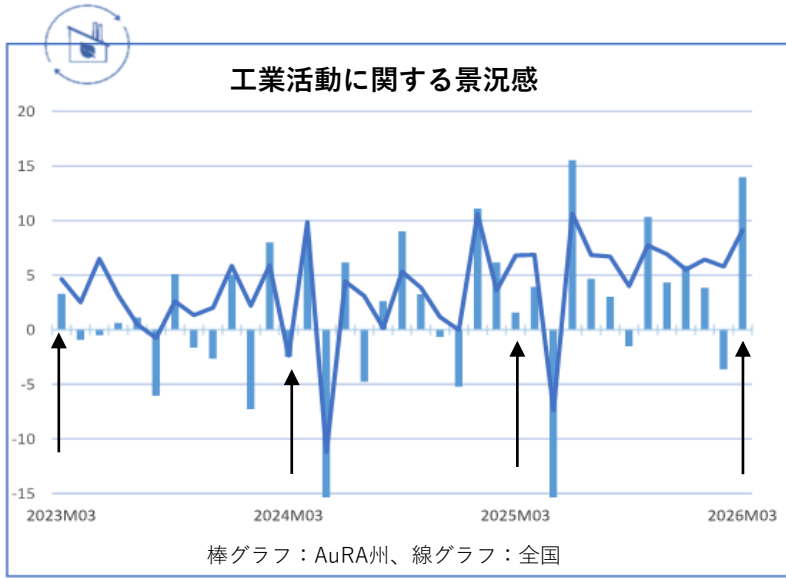


オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年3月）

2026年4月 在リヨン日本領事事務所



ポイント

- 3月のAuRA地域圏における景況感は、工業部門及びサービス部門で活況を呈した一方、建設部門では悪化した。
- **工業部門**：AuRA地域圏の景況感は、2月の景況感の悪化後、大幅に改善し、その伸びは全国平均を上回った。この傾向はほとんどのセクターにあてはまる。生産能力稼働率は上昇し、2024年4月の水準に戻った。国際情勢を背景に原材料価格の上昇は加速したが、販売価格への転嫁は直ちには行われなかった。受注は増加し、受注残は部分的に回復した。
- **サービス部門**：AuRA地域圏の景況感は全国平均よりも大きく改善した。3月は、特に道路輸送セクターにおいて運賃の引き上げが行われた。
- **建設部門**：AuRA地域圏の景況感は悪化したものの、全国平均は好調な推移を維持。特に基礎工事の景況感の悪化が顕著であったのに対し、内装工事ではほぼ横ばいだった。公共工事においても悪化した。
- 短期的には企業経営者は中東紛争がサプライチェーンや原材料費に及ぼす影響を懸念している。その結果、全てのセクターで価格引き上げが検討されている。事業活動についての見通しは慎重で、経営者は、工業部門、サービス部門、建設部門ではせいぜい横ばい、公共工事については更なる悪化を予想している。
- 工業及びサービス部門、特に化学工業と貨物道路輸送セクターで資金繰りが悪化している。

- フランス銀行がAuRA地域圏の工業、サービス業、建設・公共事業の各セクター1,150の企業と事業所を対象に、景況感について調査を実施（2026年3月27日～4月3日）。
- 景況感（le solde d'opinion）とは、企業経営者による肯定的意見と否定的意見の合計を、企業の従業員数で加重平均し、各部門の付加価値で調整したもので、企業経営者による7段階評価の回答を集計した指数であり、その値は-200から+200の範囲となる。季節調整済み及び稼働日調整済みデータを使用。

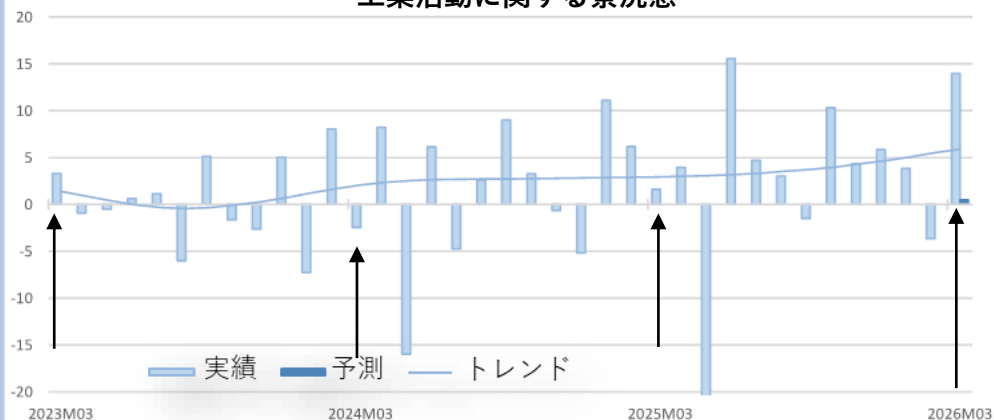
（出所：Banque de France, [Tendances régionales : Auvergne-Rhône-Alpes](#)）

オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年3月）

：実績、翌月の予測、トレンド



工業活動に関する景況感

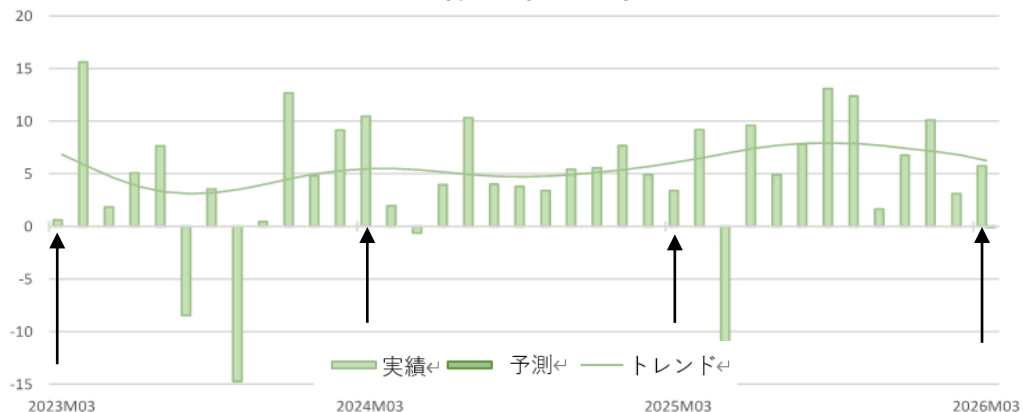


3月の工業部門の景況感は、前月の落ち込みから一転し、ほとんどの業種で大幅に改善した。しかし、食品・飲料セクターは2カ月連続で低調に推移したほか、ゴム・プラスチック製品製造セクターも悪化。原材料価格の上昇が加速したが、その全てが販売価格に転嫁されたわけではなく、4月に価格改定が検討されている。受注は、特に国内受注が増加し、受注残は部分的に回復した。しかし、現在の国際情勢を踏まえると、サプライチェーンには大きな不確実性が残っている。その結果、企業経営者は慎重な姿勢を崩さず、4月の事業活動は横ばいになるとみている。



サービス部門では、3月の景況感は改善した。この傾向は、横ばいだった外食及びエンジニアリング・技術研究セクターを除く、全セクターにあてはまる。雇用はわずかに減少した一方、価格は大幅に上昇した。中東における紛争に伴う不確実性を背景に、企業経営者は慎重な姿勢を示しており、今後数週間は事業の現状維持を期待するのが精一杯の状況。特に、道路輸送業セクターでは更なる価格の引き上げが予告されている。

サービス活動に関する景況感



建設活動に関する景況感



3月の建設部門の景況感は悪化した。工事受注動向は、基礎工事では明らかに鈍化した一方、内装工事は安定していた。公共工事は著しく減少した。見積価格は再び下落し、基礎工事では急速に下落した一方、内装工事では緩やかな上昇がみられた。雇用はわずかに減少。現下の地政学的状況は、事業活動だけでなく、資材価格や供給状況についても大きな不確実性をもたらしている。短期的には、業界関係者は建築及び公共工事ともに事業活動の縮小を見込んでおり、見積価格のさらなる上昇を予測している。